

NOSAIの技術情報



No. 1

平成18年6月28日
神奈川県農業共済組合

水温の保温といもち病等対策

水稻の生育状況（6月下旬現在）

- ・ 苗の生育は、少日照、やや低温の気象で推移したため、軟弱傾向となりましたが、田植え作業は、平年を上回る降雨のため、順調に行われました。
- ・ 田植え後水稻の生育は概ね平年並みに推移し、草丈はやや高く、茎数は平年並、葉色はやや濃い傾向にあります。
- ・ 害虫の発生は、平年に比べてやや遅れる傾向にあります。

今後の管理の留意点

- 1 少日照傾向が続き、健全な生育を促進するための間断灌水の徹底と、早期追肥をしないで気象の変化に合わせた栽培管理に努めて下さい。
- 2 一部湿田、深植え、除草剤の薬害等による水稻の初期生育が遅れている場合がありますが、生育促進を目的とした追肥は行わないで下さい。
- 3 害虫の発生が遅れる傾向にありますが、セジロウンカ等梅雨前線の気流に乗って飛来する害虫の情報には十分注意して下さい。
- 4 少日照による軟弱・濃い葉色傾向により、谷戸田等いもち病が多発しやすい地域を中心に発生に注意し、置き苗の除去、間断灌水管理に努めて下さい。
- 5 水が比較的確保できているため、雑草の発生が抑制されていますが、雑草が多く残っている場合は、中～後期に使用する除草剤を処理します。

いもち病常発地は水田の水口での発生が一番多い

谷戸田、山間地のいもち病常発地の発生状況



いもち病対策に水温の保温をビニール
ホース灌漑で対応（南足柄市竹松）



水口からの冷たい水を土盛りで防止し
水温の保温に努めている（秦野市東田原）



用水路からの引き水は板柵をつくり
水温の保温を工夫（秦野市東田原）

イネツトムシの防除適期

イネツトムシの第2世代（幼虫）のふ化最盛期は7月26日頃になると予想されています。昨年のふ化最盛期とほぼ同じ発生となります。

[防除適期]

粒剤では7月23日頃、その他の薬剤では8月上旬と予想されます。常発地では特に注意し、防除を行うようにして下さい。

[防除薬剤]

パダン粒剤 10a当り3～4kg

魚毒・蚕毒が強いので、使用に当たっては十分に注意して下さい。（病害虫防除所情報抜粋）